

秘密指定解除
外交記録・情報公開室

極秘
まで

1 次官
2 外務省議員
APR. 18. 1962

アジア局長手

宇山審議官手

ト部參事官手

北東アジア課手

日韓問題に関する小坂大臣、

ライシヤウー大使会談記録

37. 4. 17.

北東アジア課

17日午後、ライシヤウー大使は小坂大臣を來訪

し会談したが、その間、日韓問題に関する

部分(は次のとおり)。

まず、小坂大臣より、先般の第1回日韓

政治協議の要旨を説明し、詰合ひは請求権

領事、韓国人の法的地位、文化財、船舶等

諸問題(?)まで、両国間の空気を改善

するという趣旨から竹島問題を取り上げたが、

今該の中心は何といって請求権問題(?)

より、その基本的な方針にて、賠償では

下さいと、南北鮮、アメリカ解釈、証拠書類

の問題が去るごとに指摘した。これに

よし韓国人は竹島問題、南北鮮の問題

いつも強く攻撃してきて。結局今該を通

いて判明したことは、双方の方針が大きく

食い違つてゐることと、准長官の態度が

心がたいといつてあります。後来の朴正熙

議長や金鐘泌中央情報部長の態度とは

非常に違つてゐた、日本側としては熱意、之は

政治会談はほんとうであるが、海外務

部長室は、日本側のいうことなどして理解

しようといつたからだ。結論として、自分は今國

α 政治会談の結果につき詮駁している旨述

べく。

これに付し、ラ大使より、本国としては、

本国政府もろん 在京大使館とソウル

大使館で今次外相会談の結果、両国

関係が一步前進するものと大いに期待して

いたが、遂にまじめ後退したようだとは

なり。非常に失望している次第である。日本側

においては今後どうするのか、参議院選舉の

後に本再開する考え方があるのか、その辺の

ところを聞く所となり面倒した。

小坂大臣より、これに付し、先方の考え方

が変らぬ限り、現在のところ今該を行はる

見持はない、今よりは韓國側の考え方

では、いふる如合にて少くとも成果は生まれて

こなれようと思われる。わが方から韓國側の

言い合をそのまま否もようなことがあれば、日本

本の国民がおさまらないものと考える。他国

終修理においても 当今は駄目だという感い

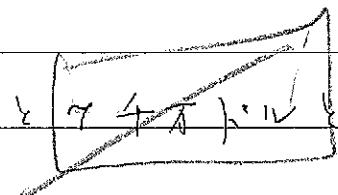
を持ておられるようには承知している旨

述べた。

ラ大使は、これに付し、貴大臣が日本

の方方にが寧々と申されたのは 教育の問題

なのであらうか、もしそるとすれば、今億ドル

と  一千万ドル では自分としてあります

大きな寧いであると考える。自分として日本

日本側の一千万ドル というのは あまりに少

unrealistic は数字であるといわれるえない

韓国人は非常に sensitive な国民である。

問題の根本は、請求権といふ法律問題で

なく、また、経済協力といふ経済問題で

なく、結局、36年の朝鮮統治に由来する

韓国国民の psychology の問題である。

日本が支えていた額が、7千ドルより、1億ドル

程度といふので、到底韓国側はおかまらない

であらうと考える。但し、日本側が

もう少し立派だと思ふ。呼称は請求権で

無償援助でしかまわなれど、何れかしら

数億ドル | 来はね | の解決しないと考へる。

10年位に分割してさせば、日本は完全に得

る実力があると考へると述べた。

これに付し、小坂大臣より、日本としては

朝鮮に莫大な財産を置いてきた事実を指

摘せざるをえず、また、米国が在韓私有財産

を没収したのを、戦時開港法違反であると

いう問題も起り得るし、うなれば日米関係

に影響しよう。後で、日本としては請求権

であれ、無償援助であれ、韓国側に支払

の結果となる金額は小さくせざるを得ない、

として長期低利という考え方によるわけだが、

韓国人はこれには全然興味がない。

また、黄大使は、韓国人の psychology の問題

であるといわれるが、日本人は psychology の問題

がある、李承晚は、永井にわざと

抗日政策をとるし、日本人は未だ日本

韓国人にえし好感を持てないなど

考へに入れだけれど、あまりと云つた。

黄大使は、米国人でもさうは検討した上、

改めて中國の該機会を持ちたいと

述べて合意を結びた。

武内外務次官・江口AID極東局長会談

31・6・8

6・8